

2018年 5月 25日

私立大学図書館協会西地区部会
東海地区協議会加盟館 各位

私立大学図書館協会西地区部会
東海地区協議会研究会運営委員長校
日本福祉大学附属図書館
図書館長 亀谷 和史
(公印省略)

2018年度図書館実務担当者研修会の開催について(ご案内)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は協議会の活動に関しまして、格別のご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、本研究会では、標記の研修会を下記の通り開催する運びとなりましたので、貴館実務担当者のご参加をお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。

つきましては、参加の有無を別紙「参加申込書」にて **6月15日(金)**までにE-mail 添付にて下記連絡先宛にご返信ください。また、ご質問およびご不明な点がございましたら、同じく連絡先までお問い合わせください。

ご多忙中のこととは存じますが、多数のご参加をお待ちしております。どうぞよろしく
お願い申し上げます。

敬具

記

日 程： 2018年9月6日(木)、7日(金)

会 場： 日本福祉大学 東海キャンパス(4階 S402教室)
〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田229番地

【交通アクセス】

名鉄常滑線「太田川駅」から徒歩5分

<http://www.n-fukushi.ac.jp/about/campus/access/index.html>

※会場へは公共交通機関でお越しください。

内 容： 別紙「実施要領」および「グループワーキング紹介」のとおり

連絡先： 日本福祉大学附属図書館(担当：石川)

E-mail: tokaichiku-lib@ml.n-fukushi.ac.jp

Tel : 前日まで 0569-87-2325 (美浜本館 直通)

当日 0562-39-3817 (東海分館 直通)

2018年度 図書館実務担当者研修会 実施要領

1. 主 催： 私立大学図書館協会 西地区部会 東海地区協議会研究会

2. 開催趣旨・テーマ

大学（図書館）を取り巻く環境は、急速な電子化の進展により、電子ジャーナル、データベース、電子書籍などのデジタルコンテンツの割合が急激に増加し、図書館職員に求められる専門性も従来の枠組みから大きく拡大・高度化してきています。また、大学設置基準の改正により 2017 年 4 月からは「職員」に対する SD の義務化がなされ、日常的な研修の実施とともに、大学アドミニストレーターとして大学の教育・研究活動や管理運営への参画が求められています。

このような状況を踏まえて、今回の実務担当者研修会では、①電子資源の活用、②情報リテラシー教育、③図書館の危機管理、の 3 領域に焦点を絞って開催することと致しました。普段、接する機会が比較的少ないであろう「情報教育のデザイン」や「リスクマネジメント」などについても、議論する機会になればと考えています。

全体テーマ「図書館員の対応力を磨く」

グループワーク（3 テーマ）

A：「レファレンスツールとしての電子資源・インターネット情報の活用法」

B：「学修支援・利用教育」

C：「危機管理（迷惑行為、防災・減災対策）」

3. 日 程： 2018年 9月 6日(木)、7日(金)

※ 2日間のご参加を前提としますが、宿泊はありません。

4. 会 場： 日本福祉大学 東海キャンパス（4階 S402教室）

※ グループワーキングは、各会場に分かれます。

5. 対 象： 本協議会加盟館に勤務する実務担当者（派遣・委託職員等含む）

6. 内 容：

【第1日】	10：30～11：00	受付
	11：00～11：10	オリエンテーション、会場校挨拶、講師紹介
	<u>11：10～12：30</u>	【グループワーキング】
	12：30～13：30	<昼食>
	<u>13：30～16：50</u>	【グループワーキング】（各グループ会場にて終了）
	17：00 集合後	意見交換会（～19:00）
【第2日】	<u>10：00～12：30</u>	【グループワーキング】（直接各グループ会場へ）
	12：30～13：30	<昼食>
	<u>13：30～14：30</u>	【グループワーキング】
	14：30～16：30	全体発表、各グループ講師総評、質疑応答

7. 事前課題： 事前課題の詳細および諸連絡は、グループ決定後、各グループ担当委員より連絡いたします。

8. 参加費： ・研修会参加費 2,000円
(昼食をご用意いたします)
・意見交換会参加費 4,000円 (参加希望者のみ)
意見交換会場所 : 太田川駅付近 (予定)

※研修会参加費、意見交換会参加費は、当日集めさせていただきます。

9. 参加申込方法：

【別紙1】の「参加申込書」に必要事項を記載し、**6月15日(金)**までにE-mail添付にて下記宛にご返信ください。

<送付先> 日本福祉大学附属図書館 (担当：石川)

E-mail : tokaichiku-lib@ml.n-fukushi.ac.jp

10. グループワーキング決定通知：

グループの決定連絡は、7月上旬に【別紙1】参加申込書に記入いただいたE-mail宛てにお知らせいたします。

日本福祉大学附属図書館（担当：石川） 宛
E-mail: tokaichiku-lib@ml.n-fukushi.ac.jp

2018年度図書館実務担当者研修会 参加申込書

図書館名： _____

ご出席 ・ ご欠席

氏名 ふりがな	担当業務		参加希望グループ		意見 交換会
	業務 担当年数	図書館 在籍年数	第1希望	第2希望	
E-mail アドレス					
	年	年			
	年	年			
	年	年			

*記入欄が不足する場合はお手数ですがコピーしてご使用ください。

【参加希望グループワーキングの記入方法について】

以下グループワーキングのうち、希望するグループに付された記号（A～C）をご記入ください。

- A. レファレンスツールとしての電子資源・インターネット情報の活用法
- B. 学修支援・利用教育
- C. 危機管理（迷惑行為、防災・減災対策）

※各グループワーキングの詳細につきましては、【別紙2】をご参照ください。

なお、できる限り第1希望にご参加いただけるよう調整を図りますが、ご希望に沿えない場合がありますことを予めご了承願います。

【意見交換会について】

意見交換会に参加される方は、○印をご記入ください。

※お手数ですが研修会に参加されない場合も「参加申込書」をご返信ください。

2018年度図書館実務担当者研修会 グループワーキング紹介

A. レファレンスツールとしての電子資源・インターネット情報の活用法

講 師	佐藤 翔 氏 (同志社大学 免許資格課程センター 准教授)
担当委員	* 田中 (金城学院大学)、山本、前田 (同朋大学・名古屋造形大学)、 澤木 (名古屋女子大学)、大橋 (人間環境大学)、
内 容	<p>【ワークのねらい】 レファレンスツールとしての電子資源・インターネット情報の活用法を講義と実習を通して学ぶ。具体的には、以下の能力を身につける端緒となることを想定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合致したオンラインレファレンスツールを自ら探索し、評価し、利用法を習得する能力 ・オンライン情報に慣れ親しんだ利用者を想定し、レファレンスインタビューからその情報要求を引き出し、適切なツールを選択・紹介する能力 <p>【ワーク内容】 講義1：レファレンスツールの評価とオンライン情報資源に特有の観点 講義2：現代の利用者の傾向とレファレンスインタビュー時の注意点 ワーク1：レファレンスツールの探索と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の主題に関するレファレンスツールを探索・評価し、簡易な利用ガイドを作成する <p>ワーク2：レファレンスインタビューの実施と回答の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の情報要求と個人的傾向を持つ利用者へレファレンスインタビューを行った上で、その課題解決に寄与するレファレンスツールを探索・選択・紹介する
募集人数	20 名
事前課題	<p>指定されたテキストを読むこと、及びそれを前提とした上でのレポートの作成</p> <p>※事前課題の詳細についてはグループ決定後、別途担当委員より連絡します。</p>

*は研修担当委員ワーキングリーダー

B. 学修支援・利用教育

講師	<p>長澤 多代 氏 (国立大学法人 三重大学 地域人材教育開発機構 大学図書館・学習支援部門 / 附属図書館 研究開発室 准教授)</p>
担当委員	<p>*近藤 (中部大学)、古田 (愛知大学)、菅野 (南山大学)、 杉山 (藤田保健衛生大学)、石川 (日本福祉大学)</p>
内 容	<p>【ワークのねらい】 情報リテラシー教育の枠組みとして、印象づけ、情報サービス案内、情報探索法指導、情報整理法指導、情報表現法指導からなる5つの領域がある。大学図書館員には、所属する大学のニーズを明らかにした上で、必要な情報リテラシー教育をデザインしたり提案したりすることが求められる。このワークショップでは、所属する大学のニーズを明らかにし、それをもとに効果的な情報リテラシー教育をデザインし、展開するプロセスについて理解を深める。</p> <p>【ワーク内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講師が大学教育改革の仕組みや情報リテラシー教育（国内外の事例を含む）についての大枠を得られる程度の講義をする。 ② 事前課題でリストアップした所属する大学の活動や特徴から、ニーズを読み取り、その中のひとつを選択する。 ③ 選択したニーズに適した情報リテラシー教育をデザインする。 ④ 情報リテラシー教育を実現するために必要になる学内外の関係者との連携を検討する。 ⑤ 情報リテラシー教育を案内したり提供したりする方法を検討する。 ⑥ 情報リテラシー教育を評価する方法と、評価結果を共有する対象や方法を検討する。
募集人数	20名
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する大学の3つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を確認する（特定の学部や学科の方針でも可）。 ・所属する大学の活動や特徴について、任意で5つをリストアップする。 ・所属する大学でファカルティ・ディベロップメントなど教育開発を担当する部署や委員会を確認する。 ・次の文献を講読する。 丸本郁子、赤瀬美穂「パートナーシップの構築」日本図書館協会・図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック：大学図書館版』2003, p.27-30. (他の部分にも目を通しておいてください。) <p>※事前課題の詳細についてはグループ決定後、別途担当委員より連絡します。</p>

*は研修担当委員ワーキングリーダー

C. 危機管理（迷惑行為、防災・減災対策）

講師	中沢 孝之 氏 (草津町教育委員会事務局 係長／十文字学園女子大学 非常勤講師)
担当委員	* 榊岡 (愛知工業大学)、山際 (皇學館大学)、石川 (東海学園大学)、 中田 (名古屋学院大学)
内 容	<p>【ワークのねらい】</p> <p>公共図書館に限らず、大学図書館においても様々なトラブルが発生している。同時に、自然災害によっても開館が大きく左右されることも想定しなければならない。利用者を守るための対処法を具体的に参加メンバーで考え、危機に対する意識を高めることに加え、自館に戻り他スタッフに対して危機管理研修ができることをねらいとする。</p> <p>【ワーク内容】</p> <p>グループワークを基本として、危機対応の力とコミュニケーションの方法を考える。各図書館で起きている「危機事例」を基に危機情報の共有を図ると同時に、具体的な解決策を提示する。</p> <p>※今まで自館で「危機事例」がない場合でも参加可能です。(今後に備えて、トラブルや災害発生時における現場での対処法等を学びたい方)</p>
募集人数	20名
事前課題	<p>1. 各図書館で起きている(起きた)危機事例を報告する。</p> <p>①勤務する図書館での危機事例(具体的に)</p> <p>②その事例に対してどのような対処をしたか</p> <p>③困っていることや悩み等あればメールで報告(様式、字数は問わない)</p> <p>*報告された事例を取りまとめ、『事例集』として当日の資料として活用する。 尚、個人名や場所、図書館が特定できる記述は当方で変更や削除を行う。</p> <p>2. 図書館の見取り図(案内図でも可)で、あなた自身が思う「安全な場所」「危険箇所」に印をつけて持参する。</p> <p>*なぜ安心か、なぜ危険かを説明できるようにしておく。</p> <p>※事前課題の詳細についてはグループ決定後、別途担当委員より連絡します。</p>

*は研修担当委員ワーキングリーダー